

関係各位

国際展日本コミッショナー選定プロセス再構築に向けた協力のお願い

拝啓

時下、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、私、池田健三郎は、本年11月に開催される世界切手展「PHILATAIPEI 2026」における日本コミッショナーのアドバイザリーボード世話を拝命いたしました。わが国における国際展参加の質を維持しつつ、いかにしてその持続可能性を確保していくか。この喫緊の課題に対し、強い問題意識を抱いております。

ご高承の通り、コロナ禍を経て活動を再開したFIP(国際郵趣連盟)およびFIAP(アジア郵趣連盟)の枠組みにおいて、現在、例年以上の規模で国際展が計画されております。翻って国内を俯瞰いたしますと、出品者数の伸び悩みや、経験豊富なコミッショナー層の高齢化が顕著となっており、次代を担う選出プロセス確立の必要性は論を俟たない状況にございます。

こうした中、台北展のコミッショナー選任におきましては、急な欠員が生じるという不測の事態に直面いたしました。このため郵趣振興協会が依頼を受けて「<PHILATAIPEI2026>コミッショナー選定会議」(オンライン)を開催したところ、幸いにも、出品予定者を中心とした有志の皆様の献身的なご協力により、菊地恵実・木戸裕介(一定のエントリー数を超過した場合の2人目)の両氏に快諾をいただく運びとなりました。

台北展については事なきを得たものの、今後控えている多数の国際展を鑑みれば、場当たり的な対応には自ずと限界がございます。昨年末、この危機感を共有する井上和幸氏(全日本郵趣連合代表理事)、吉田敬氏(郵趣振興協会理事長)、および私の3名で協議の場を持ち、「台北展の手法をひとつのモデルとし、出品・参観予定者が主体となって運搬者を選任する合理的かつ透明性の高い仕組み」を構築すべきとの見解で一致に至りました。

つきましては、今後の「選定会議」(オンライン)の円滑かつ安定的な運用を図るべく、出品・参観者を擁する全日本郵趣連合、郵趣振興協会、日本郵趣協会(JPS)の3団体より、各1~2名、コミッショナー選定会議の「呼びかけ人」としてご芳名を列記する方をご差遣いただきたく、茲許お願い申し上げます。

各団体からの「呼びかけ人」に加え、有志の出品・参観予定者がともに議論する場を設けることで、組織の垣根を越えた、より機能的かつオープンで持続可能な選出体制が整うものと確信しております。

ご多用中、誠に恐縮ではございますが、本件に係る貴団体より選出の「呼びかけ人」のお名前を、1月20日23時59分までに私宛(ikeda.kenzaburo@gmail.com)までご教示賜れば幸いです。

なお、「呼びかけ人」の人数については各団体の裁量に委ねますが、事の性質上、少なくとも1名はコミッショナー業務に通暁した実務経験者をご選任いただけますよう、格別のご高配をお願い申し上げます。

まずは略儀ながら書中をもちましてお願い申し上げます。

敬具